

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イオンモール東浦増築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県知多郡東浦町緒川字旭13-2	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、準防火地域	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2017年12月14日
敷地面積	87,429 m ²	作成者	芦沢大介
建築面積	12,844 m ²	確認日	2017年12月15日
延床面積	25,443 m ²	確認者	芦沢大介



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 95%
 ③上記+②以外の 95%
 ④上記+ 95%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

音環境	3.8
温熱環境	3.0
光・視環境	4.5
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性	4.2
耐用性	3.0
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.0

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

建物外皮の	1.0
自然エネ	4.0
設備システ	2.3
効率的	3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

水資源	3.8
非再生材料の	3.9
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.2
地域環境	3.1
周辺環境	3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.2

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	18.5 %
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3.6

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>
なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(脱着・宿泊) 住居・宿泊部分					全体		
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル					3.8	0.15					3.7
1.2 遮音					3.0	0.40					3.8
1.2.1 開口部遮音性能					5.0	0.40					
1.2.2 界壁遮音性能					5.0	1.00					
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-					
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-					
1.3 吸音					3.0	0.20					
2 温熱環境											
2.1 室温制御					3.0	0.35					3.0
2.1.1 室温					3.0	0.50					
2.1.2 外皮性能					3.0	0.50					
2.1.3 ソーン別制御性					3.0	0.17					
2.2 湿度制御					3.0	0.33					
2.3 空調方式					3.0	0.20					
3 光・視環境											
3.1 昼光利用					4.5	0.25					4.5
3.1.1 昼光率					4.0	0.50					
3.1.2 方位別開口					-	-					
3.1.3 昼光利用設備					4.0	1.00					
3.2 グレア対策					-	-					
3.2.1 昼光制御					-	-					
3.3 照度					-	-					
3.4 照明制御					5.0	0.50					
4 空気環境											
4.1 発生源対策					4.2	0.25					4.2
4.1.1 化学汚染物質					5.0	0.50					
4.2 換気					5.0	1.00					
4.2.1 換気量					3.0	0.30					
4.2.2 自然換気性能					3.0	0.50					
4.2.3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50					
4.3 運用管理					4.0	0.20					
4.3.1 CO ₂ の監視					3.0	0.50					
4.3.2 喫煙の制御					5.0	0.50					
1,2階に1箇所ずつ喫煙所を設けて分煙を計画											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ					4.2	0.40					4.2
1.1.1 広さ・収納性					5.0	0.40					
1.1.2 高度情報通信設備対応					-	-					
1.1.3 バリアフリー計画	独自				5.0	1.00					
バリアフリー認定を取得し、十分な身障者用駐車場を確保											
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30					
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)					5.0	0.33					
1.2.2 リフレッシュスペース					3.0	0.33					
1.2.3 内装計画					4.0	0.33					
インテリアパースにより内装計画を検討											
1.3 維持管理					3.5	0.30					
1.3.1 維持管理に配慮した設計					4.0	0.50					
1.3.2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50					
内外装の維持管理に配慮した計画とする フードフォレストに清掃用具置き場を計画											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.31					3.0
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.48					
2.1.2 免震・制震・制振性能					3.0	0.80					
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20					
2.2.1 躯体材料の耐用年数					3.1	0.33					
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23					
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②				2.0	0.23					
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔					5.0	0.09					
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔					4.0	0.08					
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.15					
クロス貼20年を評価 屋外部分はガルバリウム鋼板製を使用 主要な用途2種以上にC以上を採用											
2.4 信頼性					3.2	0.19					
2.4.1 空調・換気設備					3.0	0.20					
2.4.2 給排水・衛生設備					3.0	0.20					
2.4.3 電気設備					3.0	0.20					
2.4.4 機械・配管支持方法					4.0	0.20					
2.4.5 通信・情報設備					3.0	0.20					
耐震Aランクとして設計											

3 対応性・更新性				3.6	0.29				3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高5.5mを確保	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.06<0.1	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				3.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	ALC特注パネルを用いて地域性を取り入れたデザインとしている	5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	イオンホール等、交流の場を設け地域に貢献	4.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.30				1.0
2 自然エネルギー利用			全熱交換器によるナイトバージ機能	4.0	0.20				4.0
3 設備システムの高効率化				2.3	0.30				2.3
4 効率的運用				3.5	0.20				3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制			エネルギー消費量の目標値を今後計画予定	4.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.9
1 水資源保護				3.8	0.15				3.8
1.1 節水			大便器・小便器ともに節水型便器	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無			壁樋の雨水を外構散水に利用する計画とする	4.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63				3.9
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自④	床:NT1051,マテコV,マテユアNW	5.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自④	躯体と仕上りが容易に分別可能	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22				4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤等に指定化学物質が含まれていないものを採用	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			GWPが低い発泡剤を使用	5.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	レベル3.1	3.2	0.33				3.2
2 地域環境への配慮				3.1	0.33				3.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自④		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自④	自動車・自転車の利便性に配慮	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自④		3.0	1.00				
2 振動		独自④		-	-				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明の3つ外に漏れる光への対策			チェックリストの大半を占める	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:18.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 イオンモール東浦増築工事

計画上の配慮事項	
総合	本計画はイオンモール東浦を増築し、新たなファサードを設け、店舗を増やすことで豊かな自然の中に都会的で洗練された「新たな顔」を創造する計画である。
Q1 室内環境	内装材は全面的に☆☆☆☆建材を使用し、室内の空気室環境向上を促進する。 また、遮音性能や照明制御に配慮することで、過ごしやすい空間となるよう心掛ける。
Q2 サービス性能	広い空間とし、開放的でゆとりある環境を創出する。また、更新性を向上させることでサステナブルな建築物を目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	外観に町の花である「卯の花色」を用い、周辺のまちなみとの調和を図る。 イオンホールを設け、施設機能を提供することで地域の活動に貢献する。
LR1 エネルギー	ナイトパーズ機能が搭載された全熱交換器を採用することで、自然エネルギーを有効に利用し、冷房負荷低減に努める。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル資材を積極的に採用することで、非再生資源使用量削減に配慮した計画とする。
LR3 敷地外環境	屋外照明器具、屋内照明の漏れ光、広告物等の照明に関して光害対策を行うことで、良い照明環境を得られるよう心掛ける。
その他	特になし。